

58

NOTE BOOK

水野三郎右工門

について、

(山形の XXXXXXXXXX)
城代家老

四年五組

水野幸子

敬学会賞第十九回入選作品

極東A30

1 ノート

2 祖先のアルバム

3 山形新報轉載

目

次

研究をしようとしたわけ…… 3ページ

1 水野家の家系図…… 4ページ

2 三郎右門のおいたち…… 5ページ

3 当時の社会情勢…… 5ページ

4 三郎右門の苦勞…… 6ページ

5 おおうどうめいのけし…… 8ページ

6 おおうどうめいくずれる…… 9ページ

7 戦^{せん}争^{そう}せきにん者のけいはつ…… 9ページ

8 水野三郎右門の死^し刑^{めい}…… 10ページ

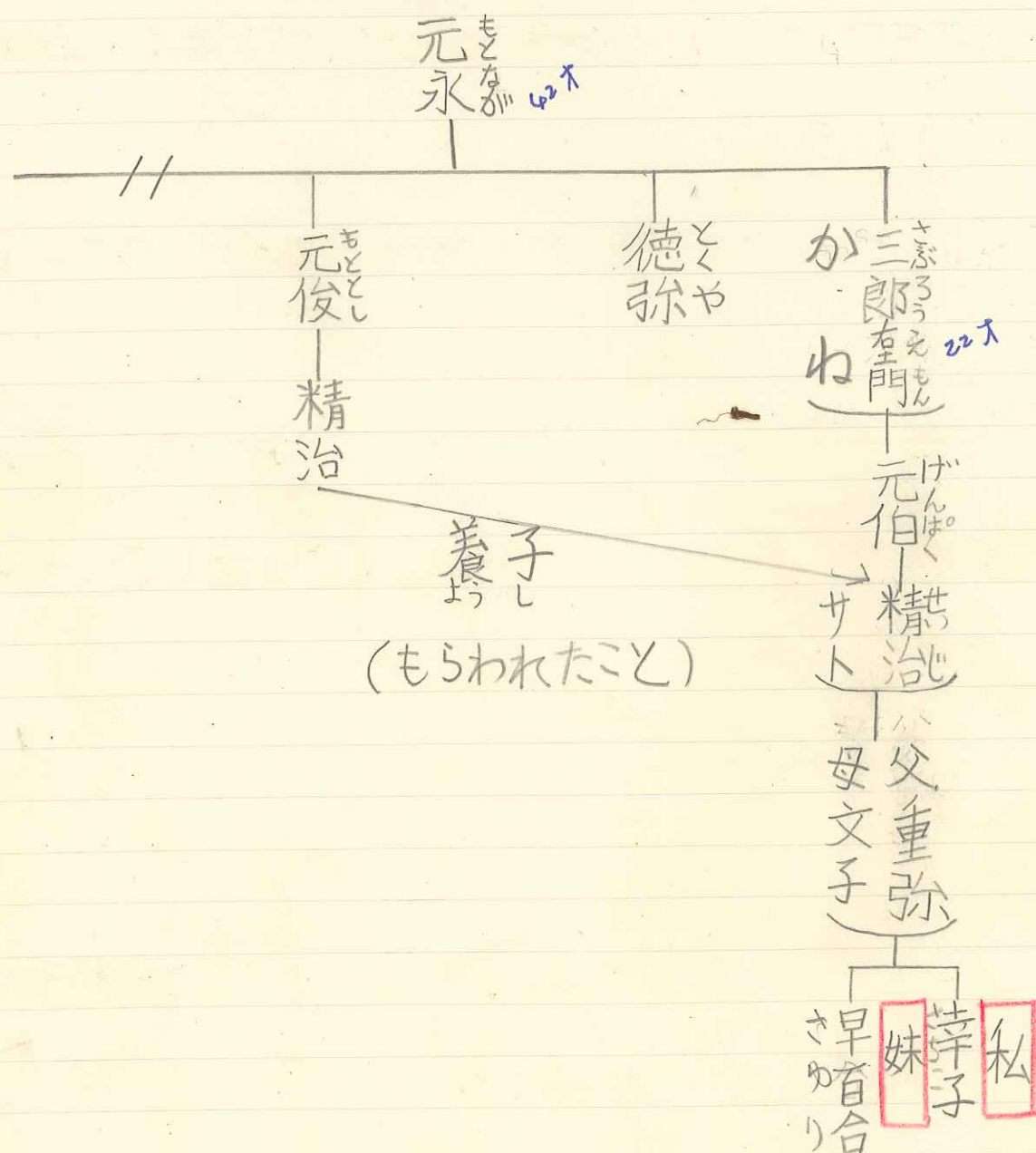
9 三郎右門のいぞく…… 12ページ

まとめ…… 14ページ

研究をしようとしたわけ

ほうれつじんじの前に水野三郎右門のどう
ぞうかあります。水野三郎右門はえらい人で
私のせんそいだということを知ったので、水野
三郎右門について研究してみたいと思った
のです。

1. 水野家の家系図



2. 三郎右門のおいたち

三郎右門は天保^{てんぽう}14年(今から123年前)浜松(静岡県)で生まれました。

弘化3年にとの様が浜松から山形にうつて来たので一しょに来ました。

元治^{げんじ}元年に父元永^{もとなが}のあとをついで城代家光^{じょうだいけいこう}(との様の次にえらい人)になりました。その時22才でした。三郎右門は学問もぶげいも大へんすぐれた人だったということです。

3. 当時の社会情勢

けいおう4年、三郎右門が26才の時300年つづいた徳川ばくふがつぶれて、政治が天のうにかえされました。しかし東北地方に

(福島県)

は、あいずわかまつ・庄内(つる岡)など、徳川にみかたする者がいたので、官軍(天のうの軍隊)がせめよせて来ました。

山形はんにも官軍から庄内をせいばつするよう
に、あいにれいが来ました。山形はんのよの様
が、~~京都~~^{京都に}にいてるすた、たので、水野三郎右門
が、この様の代りに指揮をとりました。

山形はんは、庄内せいばつのため最上川まで
軍を進めたが、ふいに何倍も多くの庄内兵か
らおそわれて、山形はんはまけてにげ帰りました。
この戦で隊長大久保伝平(山形市長大久保伝
ぞうのおじいさん)ほか5人が戦死しました。

4. 三郎右門の苦勞

山形はんは、官軍からめいれいされたから

しかたなく庄内はんと戦いくさをしましたか、本当はとな
りどうして戦をしたくなかったのです。

長崎でまけたとき、庄内兵はいきおいにのって山形
市内にまで政めてこようとしたか、三郎右門
は、おおぜいの庄内兵から政められては、市民が
ころされてたり家をやかれたりするので、大変心配
し、官軍にひみつで「山形はんは、官軍からめい
れいされて庄内はんと、しかたなく戦したので
本当に戦うつもりはありません。ですから山
形市内には、政めて来ないでください」という手
紙をおくりました。庄内はんでも、わかて山形
へは、政めてこないで、天童へ兵をむけたので天
童市は、丸やけになりました。それで三郎右門は
山形市を戦いくさそうから守ってくれたと市民から大変

かんし^もされました。

5. おおう同めいのけ、せい

そうしているうち、仙台^{よねざわ}と米沢のとのさまが
おおう地方のぜんぶのとのさまを、今の宮城^{みやぎ}
県白石市^{しらいし}に集めてそうだんし、あいずわかまつの
こうぶくをきめ、こうさんするからゆるして下さい
と官軍におわびしたにもかかわらず、官軍
の大しゅう。せらしゅうぞうかききいれずあいず
せいはつをめい^{めい}れいつしたので、^{かく}各はんは大変
おこり、おおう同めいを作、て官軍にたいこう
しました。

6. おおうどうめいくずれる

こうして、今の秋田・山形・宮城・福島^{ふく}の各県のとの
様か、どうめを作、て官軍と戦をし、はじめのう
ちはいたるところで勝ちましたが、そのうち秋田が
どうめいをうらぎり、つついて新庄も官軍がわへ
ついてどうめいにくずれてきました。

そうしているうち、あいずわかまつも、政めおと
され、(び^{ゆうめい}こたいで有名です)米沢もこうさんし
たので山形ははじめ、次々に官軍にこうさんしました。

7. 戦争 せきにん者のけいはつ

最後に庄内がこうさんして戦争はすっかり終りま
したか、おおうどうめいを作、て官軍と戦を
したので^{かく}各はんから戦争せきにん者を出すよう

に、めいれい^いが来ました。

各はんでは戦死した人をせきにん者としてとどけ出しました。さいしょから最後まで官軍にはんこうしたあいさ・庄内でさえ戦死していない人をとどけましたか、山形では水野三郎右門が官軍にはんこうしたせきにんは私一人であり、ほかの人には何のつみもありません」と、とどけたので三郎右門がはせられることになったのです。

8 水野三郎右門の死刑^{はい}

けいおう4年は明治元年と改められましたか、よく年の明治2年5月19日東京から使の者が来て、三郎右門に、はね首の刑を言い渡しました。三郎右門は、せぶくはかくごしていましたが、はね首と聞いて意外に思い、けらいたちも「ぶしとしてなさけ

ないことだ」とふんがいましたか、どうしょうもなくしょうちするよりほかありませんでした。

当時、三郎右門の家はけいむしょあとで、びじゅつ会館の東がわにありました。(やしきのあとに今も記ねんびが立っています)また家ぞくは、三郎右門の父・母・妻・子ども(当時まん1才)のほか、に弟4人妹2人いました。三郎右門の父や母も、はな人で、東京から死刑の知らせがとどいた時かなしさに泣くよめやむすめをしか、て「三郎右門の死刑はかくごの上である。山形はん全体のため責仕を1人でせお、て死ぬことは、ぶしのほまれである。」と言ってたしなめました。よくじつ、5月20日(死刑の日)朝、両親にわかれのあいさつをし、子ども、かめたろう(まん1才)をだいて、ほぼずりしながら庭を歩いている所へ、むかえの者が来

ました。白しゅうぞくに着かえ、かごにのって役人にまもら
れながら七日町長源寺に入りました。その道を大ぜい
の人が泣きながら「山形のため死刑になる家老さま」
と手をあわせてお見送りましたそうです。長源寺の
庭に白まかをはり、そこで死刑になりました。

9 三郎右エ門のいぞく→(家ぞく)

三郎右エ門が死刑になると同時に家も取り上げられ
親子・兄弟みんな水野の姓を名めることさへゆるさ
れませんでした。また三郎右エ門のおはかまいりも
ゆるされず、人々は夜になってからそっとおまいりし
たそうです。そして今長源寺にあるりっぱなおはかも
一夜のうちにだれかがこっそりたてたもの^{だててひき}です。明
治22年に三郎右エ門のつみがゆるされ、子ども
かめたらうが元伯^{げんぱく}と名前をかえてふたたび水野

^{せい}の姓を^なのり^ふました。

水野元伯はオ1小学校の先生をしたりしましたが、
体が弱く明治35年3月死にました。元伯には妻も
子どももなか、たので元伯^{げんぱく}の母かねは三郎右エ門の弟
元俊^{もととし}の子ども精治^{せいじ}(当時7才)を養子^{ようし}にもらって一しょに
くらし、大正6年12月74才で死にました。

精治は私のおじいさんですが、昭和21年に死んだ
ので私は知りません。

ま

と

め

水野三郎エ右門は「山形市をすくうために自分
かぎせいになつたえらい人だ」と、人々からいつま
でもほめたたえられ、今でも5月20日のめい日には
おはかまいりに来る人がたくさんいます。ほう
れつじんじかに神様としてまつられ、^{いんじち}神社の前
にどうぞうがたっています。けいむしよあとのもと
三郎エ右門のわしきあとに記ねんひがあり、長源
寺のおほかの入口にほひょうもあります。また
長源寺の死刑されたあとに、昭和37年5月20日
記ねんひがたてられました。その時私はまく
をひきました。(私が1年生の時でした)
私のせんで、こんなえらい人がいたので

すから、私も勉強にはげんで、はな人になりた
いと思います。

おせわになつた人

1おとうさん 2おばあさん 3おかあさん

さんこうにいた本

むかしの本

山形 明治0年 (ごとうかいち)

水野三郎エ右門 もとのぶりやくでん

(ふめい)